

ミュージズ NO.7 平和のための博物館市民ネットワーク通信

発行：2002年5月

事務局：立命館大学国際平和ミュージアム

館長：安齋育郎

編集：山根和代、山辺昌彦

603-8577 京都市北区等持院北町 56-1

Tel: 075-465-8151 Fax: 075-465-7899 <http://www.ritsumei.ac.jp>

海外の平和博物館と、日本各地の平和博物館のニュースをお知らせします。小規模な平和資料館や平和博物館を造るための活動などは山根（草の家）が、大規模な平和博物館のニュースは山辺（国際平和ミュージアム）が、担当してお知らせします。

海外の平和博物館

「草の家」山根和代

平和博物館国際ネットワークの Newsletter 編集者の Dr. Peter van den Dungen から、Newsletter の発行がかなり遅れると連絡がありました。6月にスイスのルツェルンで開かれる平和博物館国際会議の準備で、御多忙のためです。しかし様々なお便りが来ていますので、お知らせします。

スイス：国際戦争・平和博物館 百周年記念国際歴史シンポジウム

スイスのルツェルン(Luzern)に、世界で最初の国際戦争・平和博物館(The International Museum of War and Peace)がジャン・デ・ブロッホ(Jan de Bloch: 1836-1902)によって、1912年に創設されました。その百周年を記念して、国際歴史シンポジウムと平和博物館ミニ国際会議が開かれます。

日時：6月6－8日

場所：スイスのルツェルンの Army Education Centre Luzern

ブロッホは、ロシア系ポーランド人の鉄道建設者、銀行家、平和研究者ですが、「もしヨーロッパに次の大戦争が起きれば、それはヨーロッパ社会の崩壊あるいは破滅につながることを大衆に警告しなければ」と考え、国際戦争・平和博物館を設立しました。彼は「耳に語りかけるよりも、目に訴える

ほうがより効果的である」と考え、博物館を通して多くの人々の関心を高めようと思いました。戦争の絶滅のためには、民衆の無知を根絶することが必要であると考え、民衆は戦争を絶滅する過程で、重要な役割を果たすことができると考えていました。しかし残念ながら、第一次世界大戦のため、1918年に閉館せざるを得なくなりました。

その詳細は、Dr. Peter van den Dungen の論文 “The International Museum of War and Peace at Lucerne” で知ることができます。その論文は、札幌学院大学の坪井主税教授が翻訳され、人文学会紀要第68号に載せられています。また第67号には、坪井氏の研究ノート「ルサーン国際戦争と平和博物館—視覚資料による建物・展示会場および一部展示品の再現」が載せられています。

シンポジウムでは、1899年第一回ハーグ平和会議でのブロッホとジャン・テン・ケイト(オランダの反戦画家)、博物館建設にお

けるルツェルン市とスイス軍士官が果たした役割、平和博物館開館の反響、主な展示物、現代の平和運動と博物館、ブロッホの博物館と今日の平和博物館などに関して発表があります。日本人では、坪井教授が「ブロッホの博物館の性格：戦争博物館か平和博物館か」という題で研究発表をされます。

また平和博物館国際会議が諸事情で 1998 年以降開催されていないため、今回関係者が集まり、今日平和教育と平和の文化の促進において平和博物館が果たす役割について話し合い、交流をします。会議の他に、ブロッホに関する展示の見学や、彼が設立した博物館があったところを訪問します。

スイスで開催される会議に出席したい方は、「草の家」の山根に御連絡下さい。直接 Dr. Peter van den Dungen に問い合わせたい方は、Fax: +41-1274-235240 P.Vandendungen@bradford.ac.uk に御連絡下さい。

イギリス

アフガニスタンへの攻撃に反対して

イギリスに平和博物館を創る運動に関わっている女性二人から、イギリスの平和運動についてお便りがありました。西ヨークシャーのベリル・ミルナー(Beryl Milner)さんは、クウェーカー教徒(イギリスに約 28000 人いる。17 世紀にイギリス国教会に対抗して、George Fox 創設)の組織 the Society of Friends で活動をされています。(戦時中、ユダヤ人救済、戦後ドイツの復興に協力などをし、1947 年ノーベル平和賞受賞)昨年 9 月 29 日に平和集会を呼びかけ、平和の祈りを開始しました。毎週金曜日の夜 7:00-7:20 に集まったそうです。

ヨーク市在住のジョイス・スミス(Joyce Smith)さんは、ヨーク市の中心部で毎週平和集会を開催しました。ビラを 1 万枚印刷して配布し、新聞へ投稿。ロンドンの平和集会へバスで参加するよう呼びかけました。

またアメリカの本土ミサイル防衛や、ヨークシャーの米軍基地(世界最大の電子情報監視基地)にも反対の活動をしました。

ビラが送られてきましたが、そこには世界貿易センターで息子をなくされたグレゴリー・ロドリゲズ夫妻の言葉「ブッシュ大統領、私たちの名前を使って、アフガニスタンを攻撃しないで」が載せられていました。また「アメリカは石油を確保するために、何年もの間ビン・ラディンとタリバンに資金を供給。アフガニスタンの人々に必要なのは、巡航ミサイルではなく、食料である」とも書かれていました。昨年 10 月にはロンドンで 5 万人の人々が反戦デモを行いました。11 月 18 日にはロンドンで約 10 万人が平和集会を開きました。1970 年代以降、最大のデモであると言われてい

ロンドン：帝国戦争博物館

ロンドンにある帝国戦争博物館(Imperial War Museum)では、ホロコーストに関する展示物を 4 年かけて作成し、展示しています。実際にユダヤ人が強制収容所に送られた際使われた貨車も展示されています。ユダヤ人だけでなく、ジブシー、ポーランド人、ソ連の捕虜、障害者などに関する展示は、イギリスで初めて行われました。今後定期的にニュースを受け取りたい方は、下記に御連絡下さい。

Kate Rhodes: Holocaust Exhibition Project office, Imperial War Museum, Lambeth Road, London SE1 6HZ
krhodes@iwm.org.uk

ブラッドフォード：平和ギャラリー

ノーベル平和賞授賞者の展示物が完成しました。(Champions of Peace) イギリスに平和博物館を創る会の理事をしている Dr. Peter van den Dungen などが 5 ヶ月かけて作成しました。なぜノーベルが平和賞を始めたのか(平和のための闘士に授与したかった)、また赤十字の創設者であるへ

ンリー・デュナン、マーティン・ルーサー・キング、マザー・テレサ、ネルソン・マンデラなど様々な授賞者が紹介されています。批判的な視点で展示物が作られており、なぜ授賞されるべきではないのに、授賞したのか(例えばキッシンジャー)、また受賞されるべきだったのにされなかった人(ガンジー)、なぜ女性の受賞者が少ないのか?その他の平和賞は?あなたは平和の実現のために、何ができますか?と問いかけています。移動展示物として貸し出します。

その他 **20 世紀初期の女性の平和運動**に関する移動展示物ができました。第一次世界大戦中いかに反戦運動が始まり、平和と自由のための女性の国際組織(WILPF)ができたのかがわかります。展示名は、「敵との境界線を越えて：第一次世界大戦中の女性と平和主義」(Across Enemy Lines: Women and Pacifism during the First World War)です。

関心のある方は下記に御連絡下さい。

The Peace Museum Office: Jacob's Well,
Manchester Road, Bradford BD1 5RW
UK peacemuseum@bradford.gov.uk
www.peacemuseum.org.uk

2月には、ブラッドフォード大学で世界の宗教と平和に関する展示が行われました。(展示名:World Religions-Universal Peace Global Ethic)ヒンズー教、中国の宗教、仏教、ユダヤ教、キリスト教、イスラム教における倫理観が、パネルで展示されました。スイスの神学者の Hans Kung は、世界の宗教に共通する倫理的価値に気付けば、世界の平和を促進することができるかと述べています。

連絡先 : Global Ethic Foundation-
Waldhauser Strasse 23 D-72076
Tubingen, Germany

イタリア：ミラノ平和博物館を創る会

ピエラ・カラメリノ(Piera Caramellino)さんは、3月7日レナト・レボラ (Renato

Rebora) という著名な詩人の詩の朗読会を行いました。レボラは、第二次世界大戦中ドイツ軍に捕らえられ、投獄されました。詩の朗読以外に、音楽の演奏もあり、会場には多くの人々が来ました。ミラノには平和博物館の建物は建設されていませんが、学校の訪問や芸術活動の促進など、活発に行っています。平和博物館に関して、全国的なコンテストを行おうと、ある芸術関係の高校の校長先生と話し合う予定です。

アメリカ：「刀を鋤に」平和センター (デトロイト)

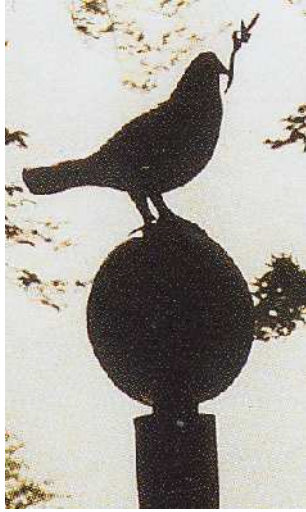
Harbinger という通信によると、「刀を鋤に」平和センター・美術館の創設者で館長のジェームズ・ブリスター(James W. Bristah)氏が亡くなりました。(1918-2001)ブリスター氏は、1940年に良心的徴兵忌避者として、投獄されました。芸術を通して平和の実現を目指そうと1986年に平和センターを設立し、その後1992年にイギリスで開催された第一回平和博物館国際会議、大阪と京都で開催された第三回会議に参加されました。

1995年スミソニアン博物館で被爆者の展示が出来なくなった際、「刀を鋤に」平和センターで、「草の家」が贈った被爆者写真パネルの展示をされました。また「草の家」に戦争を警告する版画を贈って下さり、現在展示されています。

4月から7月にかけて、世界の子どもの絵画を通して、平和を考えます。地元の学校に通う生徒の絵の展示もします。

ドイツ：ヒンデラング(Hindelang)

平和博物館館長のトーマス・ヴェックス(Thomas Wechs)さんから、博物館の前に設置した平和の鳩の像の写真が送られてきました。



ベルリン(Berlin)

ドイツで平和運動に携わり、日独平和フォーラムでも活躍されているピーター・ハンス・リヒター氏によると、昨年10月13日、ベルリンで50000人、シュトゥットガルトで25000人、計75000人が、反戦デモを行ったそうです。テロ活動に反対し、また報復攻撃では問題が解決しないと主張し、これまでより平和運動の輪が広がりました。100以上の団体と連携をとり、70以上の大学の学生が参加し、新しい平和運動の始まりになるだろうと分析しています。

ドイツも日本と同様に、アメリカの戦争に巻き込まれようとしており、9月11日のテロ事件後、軍事費を以前より30億マルク増やし、武器の輸出を40パーセント（ドイツ政府発表）も増やしました。また安全保障という名目で、100もの法律を変え、市民の諸権利が制限されてきました。日本の状況とよく似ており、有事立法など国際的な視野で考えていくことが重要であると考えさせられます。

スペイン：平和博物館

ラヴァルドウイショ(La Vall d'Uixo)の平和博物館では、ハウマー世大学大学院(平和学)と提携をしてセミナーを開催しまし

た。ユネスコの協力もあり、芸術家を招いて平和のための絵画を展示し、活発に活動しています。地元の教員が中心になっています。(4/19の大学院からの便りより。

epd@uji.es)

ルワンダ：ジソズイ博物館

ルワンダ(Rwanda)では1994年の虐殺で約80万人が殺されましたが、首都のキガリ(Kigali)にジソズイ博物館(Gisozi Museum)が出来る予定です。将来二度と残酷な虐殺が行われないことを願って建設されますが、予算不足で完成が遅れる見込みです。虐殺された人々の骸骨などが展示されますが、そのようにすると精神的な深い傷が癒されないかもしれないという問題も指摘されています。その他、図書館やビデオコーナー、食堂の建設を予定しています。(2月20日付けのThe Daily Yomiuriより)

韓国：ナムムの家

ナムムの家歴史館後援会会報第6号によると、去年9月アメリカ、ワシントンの連邦地方法院に日本政府を相手取って提起した損害賠償集団訴訟で10月4日、米連邦法廷は「棄却する」という判決を下しました。その理由としては、「日本政府が被害者に強制した行為は疑うことなく野蛮な行為であるが、裁判では処理できない両国の間の政治的問題であるために」ということでした。

6月30日には、国際平和研究学会の参加者が中心になって、ナムムの家と歴史館を訪問する予定です。現在フィリピン、南アフリカ、イスラエルの方が参加の予定で、アメリカの方も行きたいという連絡が入っています。関心のある方は、山根に御連絡下さい。

ナムムの家歴史館後援会連絡先は、次の通りです。

nanum@deneb.freemail.ne.jp

<http://kyoto.cool.ne.jp/nanumu/>

ネパール平和教育学会

英文のミュージズに対するお礼と今後平和教育について交流をしたいというお便りが、ネパール平和教育学会の Dambar Bir Thapa 会長から来ました。

国連平和大学のメディア・平和研究所

国連が創設した平和大学に、新しい研究所ができ、メディア、紛争、平和、安全保障の相互関係を研究します。リンクを希望の方は、歓迎します。

御意見や提案をお待ちしています。

(Ms.) Nel Ruigrok

Webmaster: Media and Peace Institute
University for Peace: 43 rue d'Assas

75006 Paris, France

Tel. (33-1) 46.34.23.51

Fax (33-1) 42.22.90.00

E-mail: webmaster@mediapeace.org

www.mediapeace.org

徴兵制をなくす国際条約を

「徴兵制をなくす運動をもりあげ、国際条約を締結する取り組みをしています。徴兵制度がない日本に大きな役割を果たしていただきたいので、是非協力をお願いしたい」というお便りが「草の家」に来ました。連絡先と関連するホームページは次の通りです。

Avinty Lanaikey: xht@mail-box.cz

Anti-Conscription Network:

<http://www.e3.hu/~farkashe/english/ACN.htm>

日本の平和博物館・資料館

東京大空襲・戦災資料センター

10万人もの犠牲者を出した東京大空襲の戦禍を語り継ごうと、政治経済研究所が母体になり、1億円の募金運動を起こし、設立に取り組んできた「東京大空襲・戦災資料センター」が、募金目標を超過達成し、2002年3月9日に開館しました。館長は早乙女勝元氏です。建物は3階建て、総床面積約260㎡で、1階が資料・研究室、2階がミニ画廊付き会議室、3階が資料展示・保管室です。規模が小さいので、東京空襲に絞り、その被害を示す写真・遺品・絵画などが展示されています。資料の多くは「東京空襲を記録する会」が収集したものです。連絡先：東京都江東区北砂1-5-4
月・火は休館。正午から午後4時まで。入場の際の協力費は、一般300円、中高生200円です。

Tel:03-5857-5631 Fax: 03-5683-3326

<http://www2.odn.ne.jp/seikeiken/peace2/Index2.html>

高麗博物館：東京

2001年12月7日新宿区大久保に、高麗博物館が開館しました。会員の参加、交流、対話による新しい博物館づくりを目指しています。「日本とコリアの市民が真にお互いを理解しあい、ともに平和を築くことができたとき、高麗博物館はようやく完成するのです。」（「高麗博物館」2号より）

東京都新宿区大久保 1-12-1 第二韓国広場ビル9階 館長 宋富子

Tel & Fax: 03-5272-3510

平和文化史料館ゆきのした：福井

『ゆきのした』は1951年に創刊され、2001

年に創刊 50 周年を迎えました。11 月 23 日史料の公開を始め、「館報 (KANPOW)」や『ゆきのした No. 391 空晴れわたる』に、多くの写真を使って活動内容が紹介されています。

7 月 26-28 日第 32 回空襲と戦災を記録する会全国会議福井大会が開かれます。大会では、「史料館建設運動 10 年のあゆみ」の上映を予定しています。

Tel & Fax: 0776-66-1564

<http://kore.mitene.or.jp/~yukisita/yukisita@kore.mitene.or.jp>

岐阜市平和資料室

2002 年 1 月 26 日、J R 岐阜駅高架下の「ハートフルスクエア G」の 2 階の一角に、約 100 m²の広さの「岐阜市平和資料室」が開設されました。市の施設ですが、展示の企画・設営や案内は「平和館をつくる会」の会員があたっています。展示は常設の空襲コーナーと、市民からの寄贈品を展示する特別展コーナーとに分かれています。入場は無料です。『承継』20 号（戦争メモリアルセンターの建設を呼びかける会、2002 年 2 月 4 日発行）と「明日へ」50 号（静岡平和資料館をつくる会、2002 年 5 月 1 日発行）に紹介の記事が載っています。

太平洋戦史館：岩手

太平洋戦史館は N P O（非営利組織）法人格を取得し、2001 年 11 月 30 日に認証式が行われました。（「戦史館だより」33 号、2001 年 12 月 8 日発行より）

インドネシア・イリアンジャヤ州（西部ニューギニア）から日本兵の遺骨 46 柱が「帰還」しました。その際重要な役割を果たされたのが、太平洋戦史館の専務理事岩淵宣輝さんです。昨年 5 回にわたって現地を訪問。「国は国家間の賠償問題は解決済みという立場。円滑な引渡しを進めるには、民

間主導で新たな友好関係をつくる必要がある」と話しています。（『河北新報』2002 年 3 月 30 日付より）詳細は「戦史館だより」35 号（2002 年 4 月 30 日発行）で知ることができます。

Tel: 0197-52-3000 Fax: 0192-52-4575

アウシュヴィッツ博物館：栃木

ポーランドにあるアウシュヴィッツ強制収容所で虐殺された 150 万人ものユダヤ人の遺品や資料を集めて展示をしてきましたが、地権者から立ち退きを迫られ、福島へ移転することになりました。館長の青木進々館長も末期がんに侵されていますが、存続のために経費など支援を訴えておられます。

連絡先 Tel: 0287-45-2811

muzeumau@maple.ocn.ne.jp

埼玉県平和資料館

2001 年 10 月 23 日から 12 月 2 日の会期で企画展「埼玉へ疎開した文化人たち」が開催され、図録も刊行されました。2002 年 2 月 9 日から 3 月 10 日の会期でテーマ展「終戦後、混乱期の教科書」が開催されました。2002 年 4 月 23 日から 6 月 23 日の会期で、「収集資料展」が開催されています。

Tel: 0493-35-4111 Fax: 0493-35-4112

<http://village.infoweb.ne.jp/~pms>

第五福竜丸展示館：東京

2002 年 3 月 9 日第五福竜丸平和協会主催の「3. 1 ビキニ事件記念のつどい」が開かれました。静岡大学の山本義彦教授が「ビキニ事件が日本経済に与えたインパクト」と題して記念講演を行いました。朝鮮戦争から 55 年体制までの時期に、特に財界は朝鮮特需から軍事生産重視の路線へと日本経済の方向を描いていたときに、ビキニ事件が発生。この事件が国民世論に平和憲法と

平和への志向を広く浸透させることになり、それが経済界の軍事生産路線ではなく、民需による路線へ大きな影響を持ったことをあげ、ビキニ事件を改めて戦後史の中で位置づけて考える重要性を、現在の政治状況なども引きながら強調されました。

（「福竜丸だより」286号、2002年3月20日発行より）

Tel: 03-3521-8494

神奈川県立地球市民かながわプラザ

2001年9月29日から10月14日の会期で、ニューヨークの国連本部特設会場で開かれた「京都国際マンガ展第4回展」の巡回展として「美しい地球に生きる」をテーマにマンガを通じて地球環境の保護を訴えた「国際マンガ展 イン ニューヨーク」が、2002年2月26日から3月10日の会期で、平和と寛容の国際絵本展「ハロー・ディア・エネミー！」と「ユニセフとリトルフレンズーこの輝きを未来へー平早勉 世界の子ども写真展」が、それぞれ開催されました。

「地球市民レポート」12号（2002年1月発行）によると、「総合的な学習の時間」として国際理解・平和などの地球市民学習を行う際に、地球市民かながわプラザを利用する学校が増えてきおり、プラザでは各学校のテーマや学習内容に応じたプログラムの相談にも応じています。

Tel:045-896-2121 Fax:045-896-2299

<http://www.pref.kanagawa.jp/osirase/plaza>

杉原千畝記念館：岐阜

岐阜県八百津町にある杉原千畝記念館で、杉原氏の肉声が公開されました。テープは1977年テレビ局記者がモスクワで杉原氏を取材した際、録音したものです。第二次世界大戦中外務省の指示に反し、ユダヤ人難民にビザ発給を決断した当時を振り返ったものです。まもなく来館者が5万人を超

える見込みです。（2002年4月2日付『高知新聞』より）

また杉原氏の孫にあたる中村まどかさんは、オーストラリアの弁護士である Daniel Grynbergさんと、東京のホロコースト教育資料センターで出会いました。ダニエルさんの祖母（88歳）は、杉原氏が発給したビザでオーストラリアに逃げることができ、ダニエルさんは中村さんに感謝の意を表明しました。

（2002年1月28日付の The Daily Yomiuri より）

静岡平和資料センター

静岡平和資料館をつくる会のニューズレター「明日へ」49号（2002年2月1日発行）によると、静岡平和資料センターへの団体見学が2000人を突破しました。1996年に始まった団体見学は、最初の年は、14校667人でした。実物資料の展示や体験者の話が、戦争を知らない子供たちや先生の心にひびき、学校からの要望が毎年増えていき、1999年には16校1635人になりました。そして昨年2001年には、2000人を突破しました。学校数も大幅に増え、49校になりました。毎年授業で取り上げる学校が多くなり、小学校4-6年の教科書に戦争児童文学が載る10-1月が見学者のもっとも多いときで、毎日続くこともあります。

2001年11月16日から2002年5月26日の会期で、所蔵品展「こどもに伝えたい静岡の戦争」が開催されました。2001年10月5日から11月4日の会期で、企画展「世界のヒバクシャ」写真展が開催されました。2002年6月14日から9月27日の会期で、企画展「『銃後』のくらしー下町の写真屋さんが見た静岡の人々」が開催されています。「センターだより」21号（2002年5月1日発行）では、調べ学習・自由研究・宿題などに、平和資料センターの実物資料や文庫の書籍を見たり、「かたりべ」の話を聞くなどの形での利用を呼びかけています。

Tel & Fax: 054-247-9641

<http://homepage2.nifty.com/shjizuoka-heiwa>

shizuoka-heiwa@nifty.cim

立命館大学国際平和ミュージアム

2001年9月27日から10月21日の会期で、世界報道写真財団のコンテストの入選作品を展示した特別展「世界報道写真展 2001」が、2001年10月26日から11月15日の会期で、ホーチミン市戦争証跡博物館の「みどりの絵筆の軌跡」と題した絵のコンテストの入選作品を展示した特別展「ベトナム子ども絵画展」が、2001年12月4日から12月8日の会期で、戦没学生などの遺書・遺品を展示した「平和の世紀へ 遺書・遺品展」が、それぞれ開催されました。

2002年5月16日から6月13日の会期で、インドシナ戦争・ベトナム戦争で殉職した報道カメラマンの遺作を展示する特別展「レクイエム インドシナ写真展－戦場に散ったフォトジャーナリストたちの記録」が開催されています。

紀要『立命館平和研究』3号が2002年3月25日付で刊行されました。2001年春に特別展を開催した「手塚治虫」を特集しています。

平和友の会

2002年4月に、創立以来毎月開催してきた平和学習会が100回を迎え、毎月発行してきた「平和友の会だより」も5月に100号となりました。

2002年4月から、立命館大学国際平和ミュージアムの受付をガイド部会員が担当するようになり、予約なしの来館者にも国際平和ミュージアム常設展のガイドができるようになりました。

Tel:075-465-8353

大阪国際平和センター（ピースおおさか）

2001年8月1日から10月14日の会期で、世界平和をおびやかす問題の解決に取り組む人々の姿を紹介した特別展「平和のための21世紀計画展」が、2001年10月23日から11月25日の会期で、ユネスコ・アジア文化センターの第23回世界写真コンテスト入賞作品を展示した特別展、ユネスコ・アジア太平洋写真展「平和－違いを超えて」が、2001年12月2日から12月23日の会期で、大阪府内の小中学生対象の夏休み自由課題画を展示した特別展「子どもの絵展－平和・人権・共生」が、2002年1月8日から2月24日の会期で、舞鶴引揚記念館所蔵の原画を展示した特別展「中国引き揚げ漫画家たちの体験画展」が、2002年3月13日から5月26日の会期で、特別展「戦時下の大阪 砲兵工廠と大阪の町」が、それぞれ開催されました。

講座「平和学入門」が2001年9月15日から2002年3月2日にかけて、5回にわたり開催されました。

核軍縮フォーラム「21世紀を平和に－核兵器廃絶への確かな道筋を！」が2001年10月21日に広島市平和記念資料館と長崎原爆資料館の両館長も参加して開催されました。

2001年12月8日に開戦の日平和祈念事業「元船員が語る戦争の記憶」が、2002年3月13日に大阪大空襲平和祈念事業「田辺聖子さんが語る“大阪大空襲と私”」が、それぞれ開催されました。

大阪国際平和研究所の紀要『戦争と平和』11号が、2002年3月31日付で刊行されました。ピースおおさかの10周年記念号で、「ピースおおさか平和研究の10年」について小山仁示・本多健吉の両氏が執筆し、『戦争と平和』の総目次も掲載されています。

Tel:06-6947-7208 Fax:06-6943-6080

<http://www.mydome.or.jp/peace>

大阪人権博物館（リパティおおさか）

2001年11月20日から12月16日の会期で『『ナナムの家』絵画展—元日本軍『慰安婦』の記憶との対面』を開催しました。これは「ナナムの家」に集団生活を営む、かつて日本軍「慰安婦」を強要された韓国女性たちが描いた絵画の展示会でした。
Tel:06-6561-5891 Fax:06-6561-5995
<http://www.liberty.or.jp/>

堺市立平和と人権資料館：大阪

「フェニックスだより」21号(2002年3月発行)によると、紙しばいを通して平和アピールした取り組み(2001年11月1-10日)、プラネタリウムを通して、夜空の星を見たり、アメリカ黒人が心を癒すために作り出したといわれているジャズの音色や、戦時中の紙しばいを楽しんだりして、さまざまな問題についてともに考える「エイジレス・平和のつどい」を7月12日に行いました。またコソボ難民キャンプの子どもたちが描いた絵を通して、平和のメッセージを伝える第36回企画展「わたしたちの声をきいて コソボ難民キャンプのこどもたちの絵」(2001年7-9月)、インドでのボランティア活動を紹介する第37回企画展「国際ボランティア活動(インド編)」(2001年10月-12月)、世界の漫画家による作品を通して、かけがえのない地球や、命の大切さを一人ひとりの身近な問題として考える第38回企画展「平和アピールマンガ」(2002年1-3月)もそれぞれ開催しました。
Tel: 072-270-8150 Fax: 072-270-8159

平和人権子どもセンター：堺市

「草の根」第17号(2002年4月13日発行)によると、「教科書が語る20世紀展」は、愛媛、東京、高知、京都、奈良、愛知、大阪、兵庫、岡山、香川の11県54箇所での巡回展を終え、4月には京都東本願寺で開催された「非戦・平和展：教科書が語る20

世紀展」で展示されました。2001年度の来館者は延べ793人、出前講話などを含む広義の来館者は、2363人になりました。設立以来の来館者(出前講話を含む)は5年間で11544人です。韓国、台湾、中国、沖縄、日本各地から約500人が集まった第5回「東アジアの平和と人権」国際シンポジウム(2月に立命館大学で開催)の様子も報告されています。
Tel: 072-229-4736 Fax: 072-227-1453

姫路市平和資料館：兵庫

「スポーツと戦争展」を2001年10月6日から12月23日の会期で、「資料は語る 収蔵品展」を2002年1月8日から4月7日の会期で、それぞれ開催しました。「学童疎開展—現代の日本にもこんな時代がありました」を2002年4月14日から7月14日の会期で開催しています。これは、実物資料、写真、映像から当時の児童たちの体験を明らかにし、現代に生きる児童・生徒たちに戦争の惨禍と平和の尊さをうたえるものです。
Tel:0792-91-2525 Fax:0792-91-2526

福山市人権平和資料館：広島

雑誌『人権と平和ふくやま』9号が、2002年3月3日に発行されました。2001年6月13日から7月29日にかけて開催された原爆展「被害と加害のヒロシマの実相」のまとめや、同特別展記念講演会の記録などが掲載されています。
Tel:084-924-6789 Fax:084-924-6850

ホロコースト記念館：広島県福山市

ホロコースト記念館はホロコースト教育資料センターと共同で「勇気の人 杉原千畝」展をつくりましたが、それに子どもたちにわかりやすい説明やイラストを入れた「杉

原千畝パネル」をつくりました。75枚コースが2セット、35枚コースが1セット、用意されており、1回の貸出期間は2週間程度です。学校での平和学習や道徳の時間での利用を呼びかけています。貸し出し希望の方は、ホロコースト記念館に問い合わせて下さい。（「小さな手」9号、ホロコースト記念館、2001年12月20日発行より）

Tel & Fax:0849-55-8001

<http://www.urban.ne.jp/home/hec.jpn>
[hec.jpn@urban.ne.jp/](mailto:hec.jpn@urban.ne.jp)

広島平和記念資料館

企画展「ザダコと折り鶴―時を越えた生命の伝言」は2001年12月16日まで会期を延長して開催されました。これは被爆10年後に白血病で亡くなった佐々木禎子さんの生涯と「サダコと折り鶴の物語」がどのように世界に広まったかを紹介したものでした。2002年3月1日から7月10日の会期で、企画展「ヒロシマの証言―奪われた街・残されたもの」が開催されています。これは寄贈された原爆の絵や被爆資料により寄贈者やその家族の被爆体験を紹介し、原爆被害の実相を伝えるものです。

広島市は被爆体験を次世代へ継承するために、「若い世代への継承事業」（1. 平和学習の強化、2. 修学旅行の誘致・支援、3. サダコ・折り鶴の活用、4. 被爆建物・樹木の活用、5. 被爆体験の学問的整理）「継承の基礎づくり事業」（1. 被爆資料等の調査・収集・整理、2. 被爆体験のデジタル化、3. 民間の活動との連携）の2つ柱からなる推進プログラムを策定し、2001・2002年度を推進期間として、事業の展開を図っています。（「平和文化」143号、広島平和文化センター、2001年12月1日発行より）

Tel:082-241-4004 Fax:082-542-7941

<http://www.pcf.city.hiroshima.jp/peace>
[site/](http://www.pcf.city.hiroshima.jp/peace)

hpcf@pcf.city.hiroshima.jp

高松市市民文化センター平和記念室

「平和記念室だより」5号（2002年1月発行）では、「総合的な学習の時間」での体験学習で平和記念室を利用する機会が増すものと思われるため、2001年度に市内の小中学校が取り組んだ「総合的な学習の時間」における「平和学習」の事例を紹介しています。

「平和記念室だより」6号（2002年4月発行）によると、平和記念室は「高松空襲を記録する会」などの協力をえながら、高松空襲被害直前の市街住宅（地図）の再現を、8月実施予定の「高松市戦争遺品展」での公開に向けて、試みています。

Tel:087-833-7722 Fax:087-861-7981

<http://www.city.takamatu.kagawa.jp/kyouiku/bunkabu/sbsenter/heiwa.htm>

平和資料館「草の家」：高知

昨年9月11日のテロ事件以降、ピース・ライブが「すべての武器を楽器に」をスローガンに3回開かれ、新しい動きをつくりつつあります。「草の家」フォーラムでは、2月に無言館の窪島誠一郎さんを囲む会、3月に萩原遼さんの「どうなる朝鮮の北と南―いごっそう朝鮮半島50年」の講演会などを開きました。

現在Peace Wave（6-9月）を、有事法制・憲法改悪に反対し、暴力でなく平和の文化をつくる行事として位置づけて取り組んでいます。平和七夕まつり、戦争と平和を考える資料展、反核平和コンサート、平和美術展、平和映画祭、小劇場、子どものつどい、高校生平和祭などを予定しています。平和演劇祭「この子たちの夏―ヒロシマ、ナガサキそして高知」、「ドキュメンタリー映画『日本鬼子―日中15年戦争・元皇兵士の告白』を見る会」の活動を市民とともにすすめています。

韓国からスタッフとして金英丸さんを迎え、アジアの人々との交流を強めています。

6月21日には、林秀卿さん（1989年全国

大学生代表者協議会代表として単身ピョンヤンを訪れ、自らの身の危険を顧みず、民間人として初めて板門店の軍事境界線を越えた女性)を迎え、自由民権記念館で講演会をします。

Tel: 088-875-1275 Fax: 088-821-0586
<http://hal.seikyou.ne.jp/home/Shigeo.Nishimori>
GRH@mail.seikyou.ne.jp

長崎原爆資料館

2001年10月11日から12月20日の会期で、アメリカ軍の写真班員として1945年10月から11月にかけて被爆後の長崎を撮影した「H. J. ピーターソン写真展」が、2002年1月24日から3月28日の会期で、国際文化会館当時の収集・寄贈資料を紹介する「原爆資料館所蔵資料展」が、それぞれ開催されました。

2002年5月9日から9月1日の会期で、被爆後の長崎の街やその数年後の街並みを撮影した「小川虎彦写真展」が開催されています。

長崎平和推進協会継承部会は2002年3月9日に長崎原爆資料館平和学習室で『継承』を考えるシンポジウムをナガサキ学生平和ボランティアを交えて開催し、今被爆体験をいかに伝えるか、若い世代を継承に引きつけるにはどうしたらよいか、などを論議しました。(「へいわピース・ウィング長崎会報」94号、2002年4月27日発行より)

Tel:095-844-1231 Fax:095-846-5170

岡まさはる記念長崎平和資料館

「西坂田より」(2002年2月1日発行)によると、長崎平和資料館では2005年に法人化、入館者1万人を目指すことが総会で決定されました。また長崎と南京を結ぶ旅に学生参加を募り、南京との交流を深めることも合意されました。2001年12月8日に

行われた第2回長崎と南京を結ぶ集い：南京大虐殺生存者長崎証言集会の詳細がまとめられています。証言者の孫学蘭さんは、南京大虐殺当時まだ3歳でしたが、日本兵の暴虐行為により左目を失明、さらに8歳になった時、今度は日本軍の車両に右足をつぶされるという悲惨な体験を涙ながらに語られました。

また映画「息づかい」の感想などが載せられています。「ホルモニの方達の人生、あまりにも悲惨だと思いました。私たちは、記憶として伝え続ける責任があると思います。改めて、戦争について考えました。」(女性、20代)

Tel: 095-820-5600
<http://www.d3.dion.ne.jp/~okakinen>

沖縄県平和祈念資料館

2001年10月10日から11月30日の会期で第2回企画展「収蔵品展」が開催されました。今回は旧資料館から引き継がれた資料を中心に公開するもので、図録も刊行されました。

Tel:098-997-3844 Fax:098-997-3947

浅川地下壕の保存をすすめる会：東京

ニュース「Peace あさかわ」25号には、渡辺賢二氏の講演「高校生が追う陸軍登戸研究所」が掲載されています。アメリカの炭疽菌事件の炭疽菌は、登戸研究所とつながっていたかもしれないという話や、高校生たちの熱心な追求で、731部隊の石井式濾水機が発見されたことなど、興味深い講演記録です。また地下壕の埋め戻し工事、浅川地下壕口地区の巨大地下壕の謎について知ることができます。

Tel: 042-782-4487 Fax: 0042-782-4875
<http://www.asahi-net.or.jp/~cy6y-ymns/yamanashi@asahi.email.ne.jp>

日吉台地下壕：神奈川

慶応大学キャンパス内の地下に残る海軍司令部壕は、慶応大学が保存管理することになりましたが、その近くに残る海軍艦政本部地下壕は、横浜市の管理の下で、埋め戻し工事がなされています。日吉台地下壕保存の会では、12月3日に横浜市議会に、海軍省艦政本部地下壕の防災安全工事と学術調査・研究の促進、地下壕の活用を請願しました。その結果不採択になりましたが、幾多の成果もありました。詳細は、「日吉台地下壕保存の会会報」に載っています。

Tel: 045-582-0449

松代大本営の保存をすすめる会：長野

ここ数年、松代大本営地下壕を訪れる人の増加に伴い（2001年は13万人）、ガイド数が不足しています。そのため2001年12月から2002年4月まで、ガイド養成講座を開きました。4月には早速養成講座修了者の方が、定例見学会でガイドをしました。2002年2月26日には鷺澤新長野市長と懇談をし、地下壕は「市の貴重な財産として保存する」という回答を得ました。

2002年3月には総会が開催され、大日方事務局長より「2002年度は、地下壕の完全保存、公開を原点に『平和のための史跡』とするため、学術調査や行政との合同視察を行い、平和祈念館建設に積極的に取り組みます」と方針が説明されました。詳細は、「保存運動」137号（2002年5月10日発行）で知ることができます。

Tel: 026-228-8415 Fax: 026-224-1761

<http://village.infoweb.ne.jp/~kibonoie>
kibonoie@mb.infoweb.ne.jp

第8回日本平和博物館会議開催

2001年11月14・15日に、第8回日本平和博物館会議が大阪国際平和センターで開催されました。埼玉県平和資料館・川崎市平

和館・神奈川県立地球市民かながわプラザ・立命館大学国際平和ミュージアム・大阪国際平和センター・広島平和記念資料館・高松市市民文化センター平和記念室・長崎原爆資料館・沖縄県平和祈念資料館の日本平和博物館会議加盟9館すべてが参加しました。協議題は、「IT時代に対応した資料館のあり方について」「加盟館の連携企画について」でしたが、各館のホームページを相互にリンクしたり、日本平和博物館会議のホームページの試案を立命館大学国際平和ミュージアムが作成することや、相互に資料情報や企画構想を交換することからはじめて、共催展や巡回展の可能性をさぐることを確認しました。

また、聴取事項では、体験学習の受入、総合学習支援、学生用教材マニュアル、平和学習事業、資料の受入基準・評価の仕方・保管状況・データベース構築の仕方、図書・映像資料の収集方針、ホームページの活用、国際的な内容の事業、展示のリニューアル計画、リピーターなどの入館者増、収入増・経費削減などに23項目について、各館が取組状況を文書によって報告しました。

「平和のための戦争展」交流の集い開催

2002年1月26・27日に横浜で「平和のための戦争展」運動の第2回全国交流会が開かれました。14都道府県から148人参加し、4つの分科会に別れ、活発に意見交換をしました。テーマは「語り部から語り継ぎ部へ—戦争体験をどう受けつぐか」「テロ、報復戦争を前にして—『戦争展』運動の今日的意義を考える」「平和の文化と『戦争展』運動の役割を考える」「若者の広場—21世紀を平和な時代に—私たちはいま」です。集いでは、戦争体験の継承について話し合い、記憶を記録に、語り部から語り継ぎ部へのシステム作りが急がれていることを確認。また1899年にオランダのハーグで万国平和会議が開かれた後、戦争を防ぐために人類社会が積み上げてきた平和への努力の

数々と到達点を、共有しあい広げていくことが大切であることを確認しあいました。また共同で視察、調査し、展示物の作成をしようという提案もありました。

(「平和のための戦争展」交流ネットワーク事務局、二橋元長氏の報告より)

Tel: 048-825-7535 Fax: 048-832-1645

お知らせ

日中不再戦・平和交流の旅

9月に約1週間中国交流の旅を計画しています。日中15年戦争の発端となった柳条湖事件記念日の9月18日に、731部隊陳列館と協同して日中不再戦・平和交流集会を開催します。3つのコースに分かれています。9・18事変博物館、平頂山殉難同胞遺骨館、侵華日軍第731部隊罪証陳列館などを訪問し、市民と交流をします。

連絡先：日中不再戦・平和交流集会実行委員会

Tel & fax: 03-3268-1993

戦争遺跡を歩く：神奈川

横浜・川崎で毎年行っている「平和のための戦争展」の前に「戦争遺跡を歩く・みる・ふれる」という企画を行います。6/23：井田・蟹ヶ谷 7/21：宮崎台 8/18：日吉台 9/29：箕輪 10/20：生田 をそれぞれ歩きます。

連絡先：亀岡敦子さん(045-561-2758)

岡山の戦争・戦災遺跡ガイドマップ

岡山の戦争と戦災を記録する会は、ガイドマップを作成しました。希望者は下記に御連絡下さい。

Tel & Fax:086-224-3787

訃報

2002年2月26日長崎の反核・平和運動をリードしてこられた長崎の証言の会代表委員で、長崎平和研究所長、**鎌田定夫氏**が亡くなりました。

平和博物館国際ネットワークのコーディネーターである Dr. Peter van den Dungen から、次のような手紙がきました。

鎌田教授が亡くなられ、本当に悲しく思っています。彼の死は、長崎、日本、世界の平和運動にとって大きな損失になるでしょう。しかし彼の平和研究所でどのように平和と核軍縮のために人生をささげてこられたのかを知る機会があったことは幸いです。平和研究者、平和教育者、平和運動家として鎌田氏の功績は非常にすばらしく、彼に代わる方を見つけるのは困難でしょう。

また長崎で「日本占領下のインドネシアの記憶展」をされたオランダ戦争資料館のエリック・ソームルス氏(Erik Somers)から、次のようなメールが来ました。

鎌田氏に関する新聞の記事の英訳をありがとうございました。彼は本当にすばらしい方で、記事を読むと世界の平和のために指導的な役割を果たされたことがわかります。彼の思想は、引き継がれなければなりません。鎌田教授は、長崎と日本の平和運動の基礎を築かれた方です。ボランティア活動をしている多くの友人や支持者が、今後彼の活動を引き継いでやっていかれることを願っています。

また沖縄米軍の土地と利上げに反対し、資料館「ヌチドウタカラ(命こそ宝)の家」を主宰された**阿波根昌鴻氏**が、2002年3月21日に亡くなりました。著書に、『人間の住んでいる島—沖縄・伊江島土地闘争の記録』(自費出版)『命こそ宝—沖縄反戦

の心』(岩波新書)があります。

出版物

『くちなしの花—1945年—生きることと死ぬこと』

編著：石垣貴千代 翻訳：石垣貴千代、ポール・ホイットニー 出版芸術者
Flowers Without Mouths: The diary of a young Japanese man caught in World War II.
Mr. Nirimits Takushima (1921-1945)
Editor: Kichiyo Ishigaki. Translator: Kichiyo Ishigaki and Paul Whitney.
戦時中、航空隊で宅嶋徳光という青年が書いた日記と、それを読んだ現代の若者(アメリカ、台湾、中国、韓国、日本)の感想文が収められています。「自由と愛を希求した青年の心の叫びに、共感と未来への指針を読み取るのは、日本人だけでないことを確信する。」(表紙カバーより) 英訳文もありますので、海外の方も読むことができます。

第9条の会

「ヒロシマ会報」32号には、戦争の諸類型と憲法第9条(岡本三夫氏)、第6回「許すな、憲法改悪・市民運動全国交流会」改憲・戦争の道か、9条擁護・反戦の道か 市民運動の創造的展開とネットワークを!!(高田建氏)などが載っています。

Tel & Fax: 082-255-6580

fujii@jca.apc.org

「平和のための博物館市民ネットワーク」からのお知らせ

「平和のための博物館市民ネットワーク」第1回全国交流会開催報告

2001年11月18日に、立命館大学国際平和ミュージアムにおいて、日本平和学会秋期研究大会にあわせて、「平和のための博物館市民ネットワーク」の全国交流会が、1998年11月に第3回世界平和博物館会議の時に結成されて以来はじめて開催されました。この場で、事業報告をされた博物館や団体は、ホロコースト教育資料センター、都立第五福竜丸展示館、平和人権子どもセンター、太平洋戦史館、原爆の凶・丸木美術館、春日井の空襲を記録する会、東京大空襲・戦災資料センターを建設している政治経済研究所などでした。

そこで、今後の会のあり方について相談しました。会の性格については、平和博物館や地域の平和博物館関連団体の連絡組織ではなく、平和博物館関係者の個人加盟の組織であることを再確認しました。また、結成以来、事務局は平和資料館・草の家が担当して、ニュースを発行されてきました。今後交流会を年1回ぐらい開催することにしました。今回事務局を立命館大学国際平和ミュージアムに交代しますが、ニュースは平和資料館・草の家と立命館大学国際平和ミュージアムとが共同して編集することになりました。

会計報告も以下の通り、平和資料館・草の家からありました。

平和のための博物館市民ネットワーク 会計報告(1998.11~2001.11)

収入		支出	
カンパ会費	377000	事務費	19200
		紙代	20160
		印刷費	82000
		送料	311750
計	377000	計	433110
不足分	56110		

「平和のための博物館市民ネットワーク」 第2回全国交流会案内

第1回全国交流会において、交流会を年1回ぐらい開催することを確認しましたが、第2回交流会を2002年8月25日に「第6回戦争遺跡保存全国シンポジウム」にあわせて甲府市の山梨学院大学で開催することになりました。

「戦争遺跡保存全国シンポジウム」は8月24・25日と開催され、「平和のための博物館市民ネットワーク」は共催団体となります。24日は午前中が見学会、午後が全体会です。25日は、午前9時から午後2時までが分科会で、その後4時半まで全体会などが開催されます。このうち第3分科会のテーマが「平和博物館と若者への継承」です。この第3分科会の運営に「平和のための博物館市民ネットワーク」が当たる予定です。この分科会での報告希望を募りますので、報告希望の方は立命館大学国際平和ミュージアムの山辺までご連絡下さい。

午後4時半から6時までの予定で、引き続き山梨学院大学で、「平和のための博物館市民ネットワーク」独自の交流会を行います。終了後、懇親会も8時ごろまでを目途に行いたいと思います。

「戦争遺跡保存全国シンポジウム」に参加希望の方は、開催要綱や申込書が出来次第お送りしますので、「戦争遺跡保存全国ネットワーク」事務局の「松代大本営の保存をすすめる会」に参加申し込みをしてください。「戦争遺跡保存全国シンポジウム」の参加費は1500円です。「平和のための博物館市民ネットワーク」独自の交流会についての問い合わせ、参加申し込みは、立命館大学国際平和ミュージアムの山辺までお願いいたします。

これを機会に、平和博物館の運営、平和博物館を支え、発展させる運動、平和博物館をつくる運動についての交流をしたいと考えています。

しかし交流会の時間は限られていますの

で、まず交流するテーマを募集し、それを「平和のための博物館市民ネットワーク」の会員や各平和博物館・団体に連絡し、回答を事務局にお寄せいただき、回答を集約した資料を事務局から交流会に提出し、それをめぐって補足や討論をする形で交流会をしたいと思います。よろしくご協力下さい。

日程的には、6月いっぱいまで交流テーマを募集し、7月いっぱいまで回答を回収したいと考えています。

交流テーマの例としては、総合学習・体験学習・調べ学習に対応した博物館見学学習の事例やあり方、魅力ある特別展・企画展・常設展のテーマの決め方や実例、共同・巡回展示企画の提案、貸出資料やパネルセットの実例や貸出の仕方、展示や戦跡などのガイドへの若者の参加の仕方、戦争体験の語り継ぎの若者への継承事例とあり方、資料収集の基準、能率的な資料整理のあり方やデータベース構築例、資料・図書などの閲覧・熟覧や複写への対応の仕方、インターネット・ホームページの構築・維持のあり方やリンク先の決め方なども考えられます。6月中に事務局の立命館大学国際平和ミュージアムの山辺までご提案下さい。

会費納入のお願い

2002年度の会費及び未納会費のある方は未納分を含めて、郵便振替用紙を同封いたしましたので、お送りいただくようお願いいたします。年2回のニュース送付で2000円は高いのですが、日本の平和博物館のニュースを海外に発信するのに費用がかかっております。その見返りで、海外の平和博物館の情報が提供されていますので、ご了承ください。会計報告にもあるように、2001年11月の事務局引継時点ですべて約5万円の赤字でしたが、その後英文ニュースの海外発送や今回のニュース発行で、約10万円を支出しております。あわせて赤字解消の 캄パをしていただければ幸いです。

原稿募集

英文の *Muse* を 6 月と 12 月に海外の平和博物館に発送します。日本各地の平和博物館、資料館などのニュースを載せますので、「草の家」に原稿や資料を送って下さい。

780-0861 高知市升形 9-11

「草の家」国際交流部 山根和代

Tel: 088-875-1275 Fax: 088-821-0586

GRH@ma1.seikyou.ne.jp

<http://ha1.seikyou.ne.jp/home/Shigeo.Nishimori/>